

2025 年 10 月期 第 3 四半期 決算カンファレンスコールにおける Q & A（要旨）
日 時：2025 年 9 月 12 日（金）16 時 30 分～17 時 00 分

Q1. 第 3 四半期（3 か月間）の旅行事業は、約 9 億円の営業損失であり、前年同期と比べて 5 億円の減益となっていますが、その要因を詳細に教えてください。

A. 旅行事業における前年同期比での減益は、主に海外における旅行事業が要因です。

第 3 四半期の海外における旅行事業は前年同期と比べて 4 億円強の減益で、特にカナダにおける旅行事業がその半分以上を占め、主な減益要因となりました。

また、日本における旅行事業においては、1 億円弱の減益となっていますが、ほぼ計画通りに推移しました。

旅行事業は減益でしたが、他の事業セグメントは全て増益となりました。

- ホテル事業：2.1 億円の増益
- 九州産交：0.5 億円の増益
- その他事業（保険、施設管理等）：1.6 億円の増益

これらの事業が好調に推移したことにより、連結業績全体の減益幅を抑えました。

Q2. 第 3 四半期の旅行事業における、前年同期と比べた増減益の要因について、さらに詳しく教えてください。

A. 海外における旅行事業において、カナダ以外で減益の主な要因は、トルコ法人のアウトバウンド事業を縮小したことです。前期には一定の利益がありましたが、今期はマイナスに転じました。また、ゴールデンウィーク出発のクルーズ旅行事業が苦戦したことも減益の一因です。

プラス要因としては、日本発の海外旅行が 2 億円ほど増加した点が挙げられます。特にヨーロッパ方面への送客が好調で、MIKI グループの利益もプラスに転じました。

Q3. 通期の営業利益計画達成の見込みについて伺います。

第 4 四半期で前年同期と比べて 1 億円の増益で達成できるため、ハードルは高くないと思いますが、ホテル事業における訪日旅行者の鈍化や客室単価の上昇停滞など、リスクはありますか？

A. ホテル事業には特に懸念材料はありません。大阪・関西万博の効果で客室単価・稼働率ともに上昇しています。夏の日本発海外旅行の予約動向も堅調です。

リスクを挙げるとすれば、第 4 四半期は売上高が年間で一番高く、1,200 億円規模となるため、原価率や粗利率のコントロールが重要です。徹底した管理体制で公表値の達成を目指します。